

令和6年度 第1回 横浜市久良岐能舞台指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年11月1日（金） 10時00分から11時30分まで
- 2 場 所 横浜市役所 18階会議室
- 3 出席者 張 櫻馨 委員、諸貫 洋次 委員、横山 太郎 委員、横山 直子 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事内容

議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長の選任 2 定足数の確認について 3 委員会の公開・非公開について 4 令和5年度業務評価について 5 その他
議事・委員意見等	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長の選任 横浜市久良岐能舞台指定管理者選定委員会運営要綱第6条に基づき、委員の互選により、横山太郎委員を委員長に選任した。 2 定足数の確認について 委員数4名のうち、4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市久良岐能舞台指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。 4 令和5年度業務評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和5年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。 <p><主な意見及び質疑応答> (以下「・」：委員、「→」：指定管理者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業のアンケート結果を見て、リピーターと新規来館者とのニーズの違いがあると思うので、お教えいただきたい。 →大きな違いというのは見受けられず、新規来館者の関心や施設を知ったきっかけはばらばらである。ただ、新規で来館される方は交通の便があまりよくない点があるためどうにかならないかというお声をいただいている。 ・児童向けの狂言教室について、よい取組をしているが、能についても視野を入れてほしい。実施をする場合、障害がなにかあるか。 →一番は費用面であるが、能の公演について検討している事業がある。その事業で一

部の座席を小学生へ招待することも検討している。

・能装束展について、来館者の反応はどうだったか。

→能装束展は、展示している装束の横に使用する演目を説明するパネルを置いており、好評である。また、能装束展でのアンケートで実施期間を延ばしてほしいご意見や、小中学校を招いての実施もよいのではというご意見をいただいているので、今後は実施に向けて検討していきたい。

・狂言教室で小学生が来た際にチラシなどの資料は渡しているか。

→渡してしていない。

・チラシを小学生に持ち帰ってもらって、保護者に見てもらおうというのも今後のイベントの宣伝にも繋がるので、検討いただきたい。

・以前に、落語と日本舞踊、義太夫を組み合わせたコラボレーション公演もあったと思うが、令和5年度から令和6年度にかけて実施したか。

→実施していない。

・日本舞踊が苦戦していると認識しているが、落語などほかの伝統芸能とコラボレーションを実施しなかったのか。

→公演を実施し、好評ではあったが、その後の日本舞踊の講座にはなかなか繋がらなかったため、日本舞踊の先生方と相談し、方向性を変更した。

・伝統芸能の場合、単独公演での実施となると、集客がかなり難しい。例えば宝生流や歌舞伎の場合、アニメとコラボして新規獲得しているので、別の分野とのコラボを入れるのもありだと思う。

・学童保育との連携などはあるか。

→月1回実施している館長連絡会でこどもの居場所が話題になるが、能舞台をみるだけでは難しく、遊具がないので厳しいのではと思っている。

・取材などを受け、報道で取り上げられたことはあるか。

→婚礼の前撮り業者のホームページやフォトスポットとして掲載されたり、事業の宣伝で館長がラジオ出演したなどの実績がある。また地方紙などから取材されたこともある。

・横浜能楽堂が令和5年度末から改修により休館しているが、それによって利用者が久良岐能舞台へ流れてきていたりするか。

→稽古利用では一部来ているが、公演となると横浜能楽堂の収容人数ほど入らないので依頼がない。

・財源を確保するために今後検討していることはあるか。

→撮影利用が増加していることから、自主事業として婚礼の事業を進めているのと助成金については営利企業であるので、条件が合わず難航している。以前申請した芸術文化振興基金についても予算の条件が合わず申請できなかった。

・日本芸術文化振興基金へ予算の条件が合わなかった要望は、伝えた方が良いと思う。申請については、記載方法を専門の方へ相談して実施するとよいので、今後ご検討いただきたい。

【評価する点】

- ・新規来館者数及び若い世代の参加者数増加を達成し、学校プログラムについては、指定管理者の財源で実施していることを評価する。
- ・伝統芸能に係る講座を幅広く継続的に展開し、継続受講の割合を高く維持していることが確認できる。また、利用者や利用団体とコミュニケーションを密にとり、現状と課題を把握しながら支援したことについて評価する。
- ・狂言鑑賞教室を15年間かけて、磯子区内の全小学校へ実施したことを評価する。
- ・メールフォームの設置と稼働率が大幅に上回っていることを評価する。引き続き、新たなニーズを掘り起こすためにデータ化していただきたい。
- ・市内の施設と連携して事業を実施していることについて、評価する。
- ・施設管理の予防保全的を実施しており、大きな不具合が発生する前に方法をとっており、効果的に対応していることを評価する。
- ・立地面や人員面、予算面などの限界があるなかで工夫していることが評価できる。引き続き、施設の特性を生かして、市民の方々へ周知していただきたい。

【さらなる取組を期待する点】

- ・新規来館者との接点に気づいていることが確認できているため、そこから、どのように次に繋げていくかが必要と思われる。出張教室という形で実施することも併わせて検討いただきたい。
- ・婚礼の写真が増加しているとのことで、今後はSNSを利用した写真映えを狙った発信をすることを少しずつ実施していただきたい。
- ・交通手段について、海外ではライドシェアをすることがある。4人でタクシーを利用することが可能であれば、送迎バスも用意せず、利用者も不便さのイメージがなくなる可能性があるため、そのような手法も交通手段として広報していくのを検討いただきたい。
- ・狂言教室で多くの小学生が来館しているので、チラシなどを子どもたちへ渡すことも子どもたちの参加機会が増えるとともに保護者も知るきっかけとなり、施設の認知が上がるので、検討いただきたい。
- ・地域間連携を実施しているとのことで、その連携を生かして各文化施設のSNSなどの発信をお互いに紹介し合うとネットワーク効果で広がるので、取り組んでいただきたい。

5 その他

6 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。